

授業科目	病態生理学 Pathophysiology	1・2 学年	後期	選択 CNS 必修	30 時間	2 単位
担当教員	【氏名】 ◎石田 和子 石井 角保	【所属】 新潟県立看護大学 同上	【氏名】 籠島 充	【所属】 上越総合病院 病院長		
【到達目標】 ケアとキュアの融合による高度な看護学の知識・技術を駆使して、対象の治療・療養過程の全般を管理・実践するための基盤となる知識・技術を修得する。 エビデンスに基づき、専門看護師として看護の立場から炎症、変性、新生物など病態生理学的変化を解釈・判断するために必要な知識と技術を修得する。						
【授業概要】 炎症、変性、新生物など主な病理学的変化を解釈・判断するための知識を学習する。 血液検査、画像検査、内視鏡検査等における所見と診断について、成人期に発症する病的変化についてその病態を理解し、検査・診断・治療について学習する。 複雑な病態を呈する事例検討から知識の統合と臨床看護判断能力を養う。						
【授業計画】						
回数	授業形態	学習課題	学習内容	備考		
1	講義	炎症—病理所見の特徴を理解したうえで臨床を診る要点—		石井		
2	講義	変性—病理所見の特徴を理解したうえで臨床を診る要点—		石井		
3	講義	新生物—病理所見の特徴を理解したうえで臨床を診る要点—		石井		
4	講義	病理解剖からみた病態・診断、実際に臓器を観察し臨床診断との関連性を考える—		石井		
5	講義	血液所見と異常の判断		石井		
6	講義	放射線診断・画像診断・エコー CT MRI シンチ		石井		
7	講義	内視鏡診断		石井		
8	講義	中枢神経系と筋骨格系の検査とアセスメント		石井		
9	講義	代謝異常		石井		
10	講義	呼吸不全		籠島		
11	講義	高血圧		籠島		
12	講義	心不全		籠島		
13	講義	肝不全		籠島		
14	講義	腎不全		籠島		
15	演習	複雑な病態を呈する事例の検討		石田		
【評価方法、評価基準】 評価はレポート 50%、出席状況 20%、プレゼンテーション及び演習 20%、課題分析能力 10%を総合的に判断する。 課題分析力は専門看護師の高度実践を常に意識し、学習ができているかも評価する。						
【テキスト、参考文献・資料】 教科書は指定しない。参考書および文献はその都度紹介する。						
【受講、課題、資料配布等のルール】 事例検討など事前に各自、提示する資料を作成し人数分の資料を学生が準備する。						
【教員からのメッセージ】 授業に関する質問等がある場合、下記メールアドレスにお問い合わせください。 ・石田 和子 : kazukoi@niigata-cn.ac.jp						
【オフィスアワー】						

授業科目	フィジカルアセスメント Physical Assessment	1・2 学年	後期	選択 がん看護 CNS 必須	30 時間	2 単位
担当教員	【氏名】 荒井 勝光 岡村 毅 石井 角保	【所属】 新潟県立中央病院 東京都健康長寿医療センター 新潟県立看護大学	【氏名】 山下 慎也 境原 三津夫 ◎岡村 典子	【所属】 新潟県立中央病院 前新潟県立看護大学 新潟県立看護大学		
【到達目標】 ケアとキュアの融合による高度な看護学の知識・技術を駆使して、対象の治療・療養過程の全般を管理・実践するための基盤となる知識・技術を修得する。様々な臨床看護判断を行うために必要な知識・技術を修得する。						
【授業概要】 フィジカルアセスメントの構成と手順、医学的推論・診断の考え方、各系統の診査、代表的な症状・徴候のアセスメントについて講義する。各系統の身体診査は視聴覚教材やシミュレーションモデルを用いて、また、受講生相互に検者・被験者となり演習する。						
【授業計画】 授業の順番は、変更される場合があります。変更された場合は、授業開始前に修正版シラバスをお渡しします。						
回数	授業形態	学習課題	学習内容	担当教員		
1-2	講義	フィジカルアセスメントと臨床看護判断 フィジカルアセスメントの構成と手順 医学診断の考え方、問診・視診・触診・聴診・打診のポイント		岡村		
3-4	講義 演習	呼吸器系のアセスメント① 呼吸器の解剖とアセスメント		石井		
5-6	講義 演習	消化器系のアセスメント② 口腔・咽頭、腹部の解剖とアセスメント		石井		
7	講義	循環器系のアセスメント 血圧・脈拍測定、頸部の診察、心音の聴診		石井		
8	講義	徴候・症状論 1 精神症状		岡村(毅)		
9	講義	腎泌尿器系のアセスメント 問診・視診・触診・打診 (腎臓・膀胱など)、排尿障害のアセスメント		石井		
10	講義	中枢神経系・感覚器系のアセスメント 神経系・感覚器系の解剖とアセスメント		山下		
11	講義 グループ ワーク	徴候・症状論 2 意識障害 徴候・症状論 3 疼痛 (胸痛、腹痛、がん性疼痛) 徴候・症状論 4 呼吸困難		岡村(典)		

12	講義	運動系のアセスメント 筋骨格系の解剖とアセスメント	荒井
13	講義	生殖器系のアセスメント 女性生殖器・男性生殖器のアセスメント	境原
14	演習	呼吸器系のアセスメントの実際③ 消化器系のアセスメントの実際④	岡村 (典)
15	プレゼン まとめ	徴候・症状論のまとめ 11回の課題に関する発表含む	岡村 (典)
【評価方法、評価基準】 課題レポート80%、プレゼンテーション20%			
【テキスト】 特定のテキストは使用しない。			
【参考書・資料等】 その都度紹介する。			
【受講、課題、資料配布等のルール】 プレゼンテーションの際は、事前に各自が提示する資料を作成し人数分の資料を準備する。			
【教員からのメッセージ】 主体的な参加を期待する。			
【オフィスアワー】 主担当の岡村（典）が窓口となる。			

授業科目	臨床薬理学 Clinical Pharmacology	1・2 学年	後期	選択 がん看護 CNS 必修	30 時間	2 単位
担当教員	【氏名】 ◎石田 和子	【所属】 新潟県立看護大学	【氏名】 尾崎 昌宜 若林 広行	【所属】 前 新潟薬科大学薬学部 前 新潟薬科大学薬学部		
【到達目標】 ケアとキュアの融合による高度な看護学の知識・技術を駆使して、対象の治療・療養過程の全般を管理・実践するための基盤となる知識・技術を修得する。 緊急応急処置、薬物動態と薬力学、処方上の留意点と服薬指導、症状調整、慢性疾患管理に必要な薬剤を中心に、専門看護師としての看護の視点で、薬剤使用の判断、投与後の患者モニタリング、生活調整、回復力の促進、患者の服薬管理能力の向上を図るための知識と技術を学習する。						
【授業概要】 臨床薬理学の総論的事柄、代表的な病態や徴候・症状に用いられる薬剤について、オムニバス方式で講義する。最後に事例をとりあげ、看護の立場から服薬管理に関するディスカッションを行う。						
【授業計画】						
回数	授業形態	学習課題	学習内容	備考		
1	講義	臨床薬理学の基礎・総論 ①薬物動態と薬力学		尾崎		
2	講義	臨床薬理学の基礎・総論 ②薬物処方上の留意点と調整 患者への薬物処方内容と量の決定条件		尾崎		
3	講義	臨床薬理学の基礎・総論 ③注意すべき副作用と相互作用		尾崎		
4	講義	臨床薬理学の基礎・総論 ④薬物の与薬と服薬管理		尾崎		
5	講義	臨床薬理学の基礎・各論 ①循環器系の薬剤		若林		
6	講義	臨床薬理学の基礎・各論 ②感染症の薬剤		尾崎		
7	講義	臨床薬理学の基礎・各論 ③代謝異常と薬剤		若林		
8	講義	臨床薬理学の基礎・各論 ④腫瘍と薬物療法		尾崎		
9	講義	臨床薬理学の基礎・各論 ⑤腫瘍薬物療法の有害事象		若林		
10	講義	徴候・症状と薬剤 ①疼痛-1 痛みの診断と鎮痛薬の選択と適用		尾崎		
11	講義	徴候・症状と薬剤 ②疼痛-2 鎮痛薬の病態下での適応と患者への副作用説明		尾崎		
12	講義	徴候・症状と薬剤 ③神経症状		若林		
13	講義	徴候・症状と薬剤 ④精神症状		若林		
14	講義	徴候・症状と薬剤 ⑤消化器症状		若林		
15	講義	徴候・症状と薬剤 ⑥腎・泌尿器症状		若林		
16	演習	事例検討（発表）学んだことを系統的に事例に適応させ、専門看護師としての視点で検討する。		石田		
【評価方法、評価基準】 レポート 50%およびディスカッション 30%、討議内容 20%						
【テキスト、参考文献・資料】 教科書は指定しない。参考書および文献はその都度紹介する。						

**【受講、課題、資料配布等のルール】**

事例検討など事前に各自、提示する資料を作成し人数分の資料を学生が準備する。

**【教員からのメッセージ】**

授業に関する質問等がある場合、下記メールアドレスにお問い合わせください。

・石田 和子 : [kazukoi@niigata-cn.ac.jp](mailto:kazukoi@niigata-cn.ac.jp)

**【オフィスアワー】**

授業科目	看護情報統計学 Nursing Informatics and Statistics	1・2 学年	後期	選択	30 時間	2 単位
担当教員	<b>【氏名】</b> <b>【所属】</b> ◎ 永吉 雅人                      新潟県立看護大学                      nagayosi@niigata-cn.ac.jp					
<b>【到達目標】</b> 看護研究および看護実践に必要となる基本的な統計的分析の理論を理解するとともに、その方法を習得し、各自の課題研究での数量の取扱いに関する実践的分析能力を養う。						
<b>【授業概要】</b> 前半では、各々の研究テーマにおける統計的手法を用いた研究論文の紹介を行い、その統計的手法についてのディスカッションを通して、看護に関連する情報の特性、看護学研究および組織や地域活動での課題探索に必要な統計的分析を学ぶ。さらに後半では、前半で学習したことを、課題データを用いた自己学習を通して、実践的な能力を身に付ける。						
<b>【授業計画】</b>						
回数	授業形態	学習課題	学習内容		備考	
1-10	講義・討論	看護と統計学の基本知識  正規母集団の標本分布  推定と検定	看護における統計学の基本知識  標本分布の特性  看護研究における推定と検定			
11-15	講義・演習	各種検定法	パラメトリック検定とノンパラメトリック検定の使い方			
<b>【評価方法、評価基準】</b> ディスカッション（紹介論文についての理解度、結果解釈、積極的意見等）80%、課題 20%						
<b>【テキスト】</b> 特にありません。						
<b>【参考書・資料等】</b> 1) はじめての看護研究 統計学編 (2012), メディカ出版. 2) 基本からわかる看護統計学入門 第2版 (2017), 医歯薬出版. 3) 基礎から学ぶ楽しい保健統計 (2016), 医学書院. 4) 量的な看護研究のきほん (2015), 医歯薬出版.						
<b>【受講、課題、資料配布等のルール】</b> 講義・課題用の資料等はネットワークより配布します。						
<b>【教員からのメッセージ】</b> 積極的な質問・発言を期待します。						
<b>【オフィスアワー】</b> 在室時いつでも可。なお、メールで事前に連絡いただくと確実に対応できます。						

授業科目	健康社会学 Sociology of Health and Illness	1・2 学年	後期	選択	15 時間	1 単位
担当教員	<b>【氏名】</b> <b>【所属】</b> <b>【氏名】</b> <b>【所属】</b> ◎ 徐 淑子                      新潟県立看護大学 (そう すっちゃ)					
<b>【到達目標】</b> 1. 社会的な考え方を健康現象についての研究に応用するための基礎を身につける。 2. 科学的方法の限界を踏まえた上で、先行研究やじぶんの研究計画を、科学の体系の中に位置づけることができるようになる。 3. 個人の健康というマイクロ次元のできごとと社会構造との連関を、自分の研究対象に当てはめて、説明できるようになる。						
<b>【授業概要】</b> 研究論文や看護の専門書などでよく遭遇することばのおおもと（初出文献）はどこなのだろうと思ったことはありませんか？ 看護研究では、社会学に由来する研究方法や概念枠組みが多数取り入れられ援用されています。この科目では、看護学を専門とする院生のみなさんにもなじみの深い概念のうち、社会学とその隣接分野での研究に端を発するものについて、短期間ですがじっくり学びます。 まず最初に、実証主義社会学の基礎となる考え方について講義と資料講読により確認します。そしてその後、看護研究の分野にも影響を与えた社会的文献のなかから、重要文献を1点読みます。						
<b>【授業計画】</b>						
回数	授業形態	学習課題	学習内容		備考	
1	講義 演習	学術研究の成り立ちと学の三要素（理論・方法・対象理解）、社会科学とは	以下より関連部分を講読。 - ボーンシュテット & ノーキ (1990[1988]) 『社会統計学』ハーベスト社。			
2	講義 演習	社会調査の過程（理論命題、操作仮説、測定）				
3-8	演習 (討論)	<b>【文献講読と討論】</b> 以下の3つのテーマより、1つを取り上げます。 テーマ1：社会学的研究方法と看護研究 テーマ2：確率・統計論の社会的意味と科学的方法についての批判的理解 テーマ3：社会構造的要因、心理・社会的要因、生物・医学的要因の3水準とその相互連関、システム論的な考え方	重要文献1点を翻訳あるいは原書で講読。候補文献は、下記【テキスト】欄に記す。 テーマ1に関連する文献：6) 8) 10) 12) テーマ2に関連する文献：3) 4) 5) 13) テーマ3に関連する文献：1) 2) 7) 9) 11)			
<b>【評価方法、評価基準】</b> 発表（30%）、課題（30%）および討論への参加状況（40%）						

**【テキスト】**

初回に、授業で講読する書籍を受講者と討議の上、決定します。

以下は第3回以降の講読で取り組む文献の候補。受講生からの提案も歓迎します。

- 1) A. アントノフスキー(2001[1987])『健康の謎を解く：ストレス対処と健康保持のメカニズム』有信堂.
- 2) A. バンデューラ編(1997[1995])『激動社会の中の自己効力』金子書房.
- 3) S. J. グールド(1989[1981])『人間の測りまちがい：差別の科学史』河出書房新社.
- 4) I. ハッキング (1999[1990])『偶然を飼いならすー統計学と第二次科学革命』木鐸社.
- 5) J. Z. ミュラー(2019[2018])『測りすぎーなぜパフォーマンス評価は失敗するのか?』みすず書房.
- 6) A. R. ホックシールド(2000[1983])『管理される心ー感情が商品になるとき』世界思想社.
- 7) I. カワチ他編(2008[2008])『ソーシャル・キャピタルと健康』日本評論社.
- 8) A. クラインマン(1996[1989])『病の語りー慢性の病をめぐる臨床人類学』誠信書房.
- 9) M. マーモット(2017[2015])『健康格差：不平等な世界への挑戦』日本評論社.
- 10) I. パーカー(2008[2004])『ラディカル質的心理学：アクションリサーチ入門』ナカニシヤ書店.
- 11) R. パットナム(2006[2001])『孤独なボウリングー米国コミュニティの崩壊と再生』柏書房.
- 12) A. ストロース他(1987[1975])『慢性疾患を生きるーケアとクオリティ・ライフの接点』医学書院.
- 13) 津田敏秀(2011)『医学と仮説ー原因と結果の科学を考える』岩波書店.

**【参考書・資料等】**

必要な資料は、教員がその都度配布・紹介いたします。

**【受講、課題、資料配布等のルール】**

当科目は、対面授業と遠隔授業を併用いたします。遠隔授業は、同時双方向型で行います。

受講生の数が少ない場合は、初回の講義日以降、開講日を受講生との話し合いによって決めます。

**【教員からのメッセージ】**

初歩と基礎はちがいます。基礎は何回も学習し、そのつど理解の進捗を確認する必要があります。基礎を確かなものにしないうちに応用に向かうと、自分の限界を感じて失望したり無力感を感じることになりやすく、学び（そして研究）が続きません。受講生のみなさんには、この授業を、文献の精読という作業を通じていねいに基礎固めする機会にしてほしいと願っています。この授業で身につけたことを、修士で学ぶすべての講義、演習、実習での学びと統合し、地域のリーダーとなる看護職者として、修士の学位にふさわしいリテラシーを身につけて修了なさってください。

**【オフィスアワー】**

火・水・木 12:00-13:00。それ以外の日時を希望する場合はメール等でお知らせください。



授業科目	疫学 Epidemiology	1・2 学年	後期	選択	15 時間	1 単位
担当教員	【氏名】 ◎堀江 正男	【所属】 新潟県立看護大学	【氏名】	【所属】		
【到達目標】						
1. 疫学用語について説明できる 2. 疫学研究法を理解できる 3. 疫学論文の結果の解釈および内容に関する討論ができる						
【授業概要】						
疫学が健康関連の諸問題について、一人の人間を対象とするのではなく、集団を対象とする科学であることを理解したうえで、疫学の基礎および疫学研究方法について学ぶ。疫学授業の後半では、疫学研究論文を精読して、論文の全体像および結果を解釈し、さらに内容について討論を行う。						
【授業計画】						
回数	授業形態	学習課題	学習内容	備考		
1-4	講義	疫学の概念 疫学研究法 疫学指標  偏りと交絡 スクリーニング	疫学の概念、疫学の歴史 記述疫学、分析疫学 有病率、罹患率、死亡率、相対危険度、寄与危険度、オッズ比 等  誤差、交絡因子とその制御 スクリーニング、感度・特異度			
5-8	討論	疫学研究論文	疫学研究論文の精読および討論			
【評価方法、評価基準】						
出席と討論内容（疫学の基礎理解度、精読した論文についての理解度、結果解釈、論文に対する積極的な意見等）で評価する（100%）。						
【テキスト】						
指定しない						
【参考書・資料等】						
適宜、指示する						
【受講、課題、資料配布等のルール】						
初回開講時に説明する						
【教員からのメッセージ】						
主体的な参加を期待しています。						
【オフィスアワー】						
特に指定しない。手の空いている時間であればいつでも対応可。						

授業科目	家族関係特論 Theories of Family Relationships		1・2 学年	後期	選択	15 時間	1 単位
担当教員	【氏名】 ◎加藤 哲文	【所属】 上越教育大学	【氏名】 臨床・健康教育学系	【所属】			
【到達目標】 看護学における「家族関係」の問題は、看護の業務に携わる者にとって、患者やその家族を支えるための重要な要因である。本講義では、家族関係を理解するために、主として、家族心理学や臨床心理学の概念や理論を取り上げ、患者を含む家族への援助の技術や技法を学ぶことを目的とする。また、看護業務で想定される、家族関係に関わる問題に対する援助技術として面接法を取り上げながら、問題解決能力を習得することを目標とする。							
【授業概要】 家族関係に関する家族心理学や臨床心理学からの概念や理論を体系的に解説し、それぞれの特徴や、看護に関わる業務に適用する際の問題点などについて議論する。さらに、具体的な援助技術として面接技法を取り上げ、演習形態で実施する。							
【授業計画】							
回数	授業形態	学習課題	学習内容		備考		
1	講義	家族心理学からみた「家族関係」の概念と理論	家族心理学における代表的なモデルと理論を理解する		1～4 回 12/10 (土)		
2	講義	家族アセスメント	家族関係の機能の状態をアセスメントするための理論と方法を理解する				
3	講義 演習	家族療法	家族の機能に着目して、患者(クライアント)にかかる問題を解決するための心理療法の理論と実際を理解する				
4-7	講義 演習	家族関係に関する事例を用いた演習	患者と家族に関わる事例を通して、問題のアセスメントや、支援目標、支援内容について理解する		5～8 回 12/17 (土)		
	講義 演習	援助技術としての「面接法」による演習	代表的な援助技術としての「面接法」に関する演習(模擬的な面接場面を設定し、ロールプレイによる演習を行う)の理論と技術を習得する				
8	演習	まとめ	本講義から得られたポイントについて、総合的なまとめを行う				
【評価方法、評価基準】 授業への出席及び討議や演習への積極的な参加の程度(50%)、最終回に提出するレポートの結果(50%)から評価する。							
【テキスト】 特に指定はしない。							
【参考書・資料等】 授業時に資料を配布する。また、参考書は適宜紹介する。							
【受講、課題、資料配布等のルール】 特になし。							
【教員からのメッセージ】 集中講義で行うが、日程は後日に連絡する。また、討議や演習などでは積極的に発言をしてほしい。							
【オフィスアワー】							

授業科目	対人関係特論 Theories of Interpersonal Relationships	1・2 学年	後期	選択	15 時間	1 単位
担当教員	<b>【氏名】</b> 五十嵐 透子 <b>【所属】</b> 上越教育大学大学院 心理臨床研究コース					
<b>【到達目標】</b> 対人援助職であり感情労働である看護において、自分自身の対人関係スタイルを理解するとともに、自己理解を他者理解と看護に活用できるようになる。また、人と人の中で生じていることを力動的かつ多面的に理解し、円滑な対人関係能力を高める						
<b>【授業概要】</b> 講義とクラス討議、および演習的活動も含めて進める						
<b>【授業計画】</b>						
回数	授業形態	学習課題	学習内容		備考	
1-2	講義・クラス討議	1. “共感” 再考	<ul style="list-style-type: none"> <li>対人関係における“共感”の適切な理解を深める</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>事前レポート提出</li> <li>テキストや配布資料を事前に読んでおく</li> </ul>	
3-4	講義・クラス討議・演習	2. コミュニケーションにおける自己理解：自己防衛・対処行動・対人関係コーピングなど 3. ストレス理論と対人関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>さまざまな防衛機制の理解に基づき、自己理解および他者理解につなげる</li> <li>ストレッサーに対する適切な理解と考え方の理解と検討</li> </ul>			
5-6	講義・クラス討議・演習	4. 非言語的行動と言語的行動の理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニケーションの聴き手の体験と効果的な対応やかかわり方の検討</li> </ul>			
7-8	講義・クラス討議・演習	5. 包括的理解とチームでの協働の再検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援対象の包括的理解とチームでの体操におけるコンサルテーションやカンファレンス、関連活動の理解と実践</li> <li>ためこみ症に関する包括的理解を通して検討する</li> </ul>			
<b>【評価方法、評価基準】</b> 2/3 以上の出席に加え、クラス討議の参加状態 (50%)、レポート (50%)						
<b>【テキスト】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>五十嵐透子 (2003). 自分を見つめるカウンセリング・マインド：ヘルスケア・ワークの基本と展開. 医歯薬出版、東京.</li> <li>五十嵐透子 (2020). ヘルスケア・ワーカーのためのこころのエネルギーを高める対人関係情動論“わかる”から“できる”へ 2 版. 医歯薬出版、東京</li> </ul>						
<b>【参考書・資料等】</b> 適宜、資料を配布する						

**【受講、課題、資料配布等のルール】**

- ・ 事前レポート：受講生の専門領域における対人関係に関する関心事項、課題、学びたいことを A4 1 枚にまとめ、igarashi@juen.ac.jp に添付書類（word）で **10月5日（木曜日）、17:00** までに提出する。件名は必ず「新潟県立看護大学大学院 対人関係特論事前レポート」とする。
- ・ レポート：、igarashi@juen.ac.jp に添付書類（word）で提出する。件名は必ず「新潟県立看護大学大学院 対人関係特論」とする。

**【教員からのメッセージ】**

- ・ 講義は、集中講義とする：10月21日（土曜日）（#1-4：8:40-16:00）、11月4日（土曜日）（#5-8：8:40-16:00）

**【オフィスアワー】**

非常勤講師のため、個別に e-mail でアポイントメントをとり対応します。